

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600096		
法人名	社会福祉法人平和会		
事業所名	グループホームうえのまち 西ユニット		
所在地	岩手県北上市上野町1丁目7-1		
自己評価作成日	平成27年9月25日	評価結果市町村受理日	平成28年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0390600096-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域交流に力を入れている。ふれあいディサービスの開催や行事などを通じて地域の方に来ていただけるよう全職員で取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は、北上市の中心市街地北部の緩やかな南斜面の住宅地の中に立地し、開設5年目の2ユニットである。ほかに小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者向け住宅が隣接して同一敷地内に設置されている。グループホームとして年度ごとの目標を掲げ、職員全員でその具現化に向け、努力している。特に地域とのつながりを大切にしたいという願いから地域の文化祭、夏祭りなどには参加し、また、近くの中学校の生徒のボランティアなども積極的に受け入れている。特に特徴的なことは、家族等の希望に沿えるよう重度化に対応する指針を確立している。その結果、27年度は、4月から今までに5名の方の看取りを行った実績を持っている。その支援体制として訪問医療、訪問看護との連携が確立されていることと、職員の意識の高さが挙げられる。また、同敷地内にある3施設が有機的に連携して研修会、交流会を開催して、ケア意識の向上が図られていることの結果と思われる。同一理事長による医療法人と福祉法人の関係で、医療と福祉の連携が図られ、相乗効果をあげているものと思われる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見えるところに掲示している。月ごとに目標を上げケアの方向性を確認している。部所会議で達成できたか話し合いをしている。	職員間で話し合いをして年度ごと、月ごとの努力目標を掲げ、ケアの質の向上に努めている。定期的に部所会議を開催し時間をかけて丁寧に話し合いをし、また、結果についても確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧を見て草取りなどの奉仕活動にも可能な限り参加している。近隣の方から随時相談の電話があり、包括と協力し情報を共有している。	地域の自治会に加入し、できる限り各行事にも参加し、草取り等の奉仕活動や地域の方の福祉に関する相談を受けるなどの関わりを持ち、地域に開かれた事業所を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を知っていただくため、ふれあいディサービスを開催した。認知症に限らず介護全般について話が出来るサロンの場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃から地域との交流を話題に上げている。推進委員の協力でふれあいディサービスを開いた。又、ご家族の提案で家族交流会にボランティアを募り一緒に活動することが出来た。	委員は地域の代表のほか、元民生委員、家族の代表者等で構成され、事業所内での利用者の様子の報告のほか、時々話題を提供している。家族代表の提案により、家族交流会にボランティアとして参加してもらったこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネジメント支援会議に出席し情報を収集している。近所の方からの相談や施設のご利用者への対応等について包括の職員に情報を提供したり相談している。	年4回開催されるケアマネ支援会議では、市の長寿介護課の担当職員からの情報提供のほか、話し合いなどが行われ、また、介護認定の更新時などでは担当窓口を訪問し、相談に応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ玄関に施錠している。言葉の拘束にも注意し気になることは部署会議で話し合っている。	所内の身体拘束委員会を定期的に開催し、ヒヤリハットを含めた事故防止、拘束のない介護の在り方、危険予知の訓練の勉強会等を行っている。ベッド脇のセンサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の勤務の様子にも目を向けている。内服の関係で内出血が出来やすいご利用者が多いので、就寝前に異常がないか確認している。虐待の資料を配布し目を通してしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームうえのまち(西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している方はいないが、必要に応じて勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は十分に時間をとり、分かりやすい説明を心がけている。区分変更や更新時に利用料が変わることがあるので、説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会や夏祭り、家族交流会などを通じて職員と交流する機会を設け、何でも話していただけるような環境を整えている。状態に変化がある時やケアプラン作成時にご家族に参加していただいている。	家族会総会での家族からの意見、事業所訪問時の家族からの要望等を率直に受け入れるようにし、また、利用者については、日頃の本人の思いを汲み取り、その方の担当者と職員が相談をして改善し、結果を家族に伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の司会を持ち回りにした事で、職員個々の興味のあるテーマを議題に出来るようになった。話題や問題になっていることはリーダー会議に上げ解決している。	1ヶ月に1回開催される職員会議の司会者は輪番制をとっており、自由に発言できるような雰囲気を持っている。重要な決定事項は、管理者・主任・リーダーで構成されるリーダー会議で決められるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議に参加し現状を把握している。個別に相談したり、必要時は面談を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リスクマネジメントの研修に定期的に参加したり、研修案内の中から、個別に声をかけ参加できるようにしている。それを職員会議で報告し定着できるような取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修やグループホーム協会の研修会に参加している。また、姉妹法人との定期的な情報交換会を行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にいたるまで何度か面談を重ね、ご本人とご家族の要望や不安を傾聴し、密にコミュニケーションを図りながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設の雰囲気を見ていただき、ご家族が抱えている問題や要望、不安な事を聞き、一緒に取り組めるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前と入居後の生活の様子、身体状況を把握し、今必要なケアが提供出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを尊重しながら出来る能力を活かし、食器拭きや後片付け、洗濯物干しなどに取り組んでいる。職員もご利用者の知恵をかり共に支えあい、寄り添う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子をご家族の意向に添い、手紙や専用ノートで伝え情報交換・共有をしている。面会時も状況を報告し、ご家族の思いを直接確認している。家族交流会を毎年開催し交流を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら外出や外泊の機会を設け、地域の行事に参加したりと、これまでの関係を断ち切らないように支援している。	本人や家族の希望により、定期的に自宅外泊される方、お盆や正月に帰宅される方など、様々な形で外部に出かけている。自宅近くでの地域行事に参加するため、外出する方もおり、その方の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や生活パターン、お互いの関係性の理解に努め、気の合う同士で交流をしたり、職員が仲介に入りながら関わりを持てるようにしている。各ユニットのご利用者が気軽に交流を図れるように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は、引き続き相談が出来ることを説明している。退居後も施設に来苑していただき近況の報告やタオルなどの寄付をしていただいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の希望や要望を引き出せるように努めている。何気ない会話の中の言動や仕草から読み取り、職員間で情報を共有しながら把握し、支援につなげている。	利用者のそれとない言葉や仕草から思いを汲み取り、それを職員間で話題にし、叶えるようにしている。紅葉狩り、花見、郷土芸能まつりの見学、郷土食のがんづき作りなど、利用者全員で楽しむことの出来る行事に発展させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前はご本人やご家族と何度か面談し、生活歴の把握に努めている。暮らしの情報シートを活用し会話の中からライフスタイルなどの聞きとりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々の生活パターンや習慣、毎日の心身の状態を把握している。生活の様子から表情や行動、言動などに注意し、変化や気づきを職員間で情報共有しながら、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを開催し、ご家族にも参加していただきながら評価見直しを行い、介護計画を作成している。居室担当だけでなく全職員から意見を集め反映するように工夫をしている。	定期的に、ケアマネジャーと担当者、関係職員が会議を開催し、その結果に基づき、家族と相談をして介護計画の見直し等を行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や気付いたことを具体的に記録し、情報を共有している。その記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに対応できるよう、職員間で話し合いながら取り組んでいる。併設の小規模に出かけ活動したりとグループホーム内だけでなく交流している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームうえのまち(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活に刺激と張りが持てるよう、慰問などは率先して受け入れている。行事の際は、地域の婦人会や学生ボランティアに来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医との関係を継続している。受診時にはご家族へ情報提供を行い、必要時は職員も付き添い対応している。ご利用者の状態変化、ご家族の希望により訪問診療へ切り替えることもある。	利用開始時のかかりつけ医をそのまま継続している方が多い。通院は、原則的に家族が付き添うこととしているが、状況により職員が同道することもある。希望により訪問診療、訪問看護も取り入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携体制をとっており、ご利用者の日々の様子や状態を報告している。必要時は相談を行い、アドバイスをいただきながら適切な支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ書面で情報提供している。お見舞いに伺い情報を収集するなど医療機関と連携をとっている。又、ご家族と情報共有しながら今後の対応について相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての方針を説明し、ご家族の意向を確認している。その後も必要時に話し合い確認している。重度化した場合は、施設で出来ること、出来ないことを十分に説明し、ご家族の意向を伺いながら医療と連携している。	利用開始時に、重度化に対応した終末期医療、看取りなどについて指針(確認書)に基づく話し合いによる合意の上で、入居してもらうこととしている。同系列の医療機関と連携して、今年度4月以来、事業所内での看取りが、5例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の状態確認や対応のマニュアルを作成し、職員が周知できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行なっている。反省点を次回に活かしながら進めている。有事に備え、食料や水などを備蓄している。	年2回、防災機器メーカーと連携して、消火訓練、避難訓練を実施し、そのうち1回は夜間想定避難訓練、通報訓練等を行っている。	夜間想定訓練では、できるだけ外部の状況が変わる時間帯(薄暮時や日暮れ後等)に行われることが望ましい。また、地域住民の支援体制の確立、職員間連絡網による通報訓練の錬成を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の言葉使いを大切にし指示的にならないよう心がけている。職員同士で声を掛け合い、記録時の言葉使いにも注意している。	職員は利用者一人ひとりの希望、意向・思いを叶えるように心配りをしながら、ケアにあたるようにしている。言葉遣いや介助動作にも、気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やおやつは、好みのものを選んで頂くなどの対応をしている。すぐに決めることができない方には、目の前にお出しし時間をかけ選べるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れを理解し、一人ひとりのペースに合わせて生活している。居室でテレビを見てゆっくりしたい方には、希望に沿い対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服やエプロン・帽子など好みのものを選んでいる。化粧水をつけたり、化粧する方には声をかけたりしている。散髪は定期的に行い、整容面にも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせ盛り付けを工夫したり、食べやすい形態で提供している。おしぼりたたみや食器拭きなど積極的に行っている。自宅で取れた野菜を調理し食べる事もある。	食事作りや配膳、下膳など出来る方には声がけをして手伝ってもらうようにしている。メニューは、希望により季節感のある食材、郷土食、行事食などを取り入れるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限や食事形態、好みに合わせて厨房と連携しながら提供している。体調を配慮しながら食べやすいものを準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方には声を掛け見守っている。ご自分で出来ない方には個別に歯間ブラシやガーゼを使用し対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームうえのまち(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行や立位が困難な方でも、職員二人で介助しトイレで排泄できるようにしている。排泄のサインを見逃さず、言葉使いにも気をつけている。	排泄の失敗により自尊心を傷つけることのないよう、各自の排泄パターンを把握し、また、仕草などからタイミングを見て、それとない誘導により排泄の自立が出来るように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を定期的に行い、便秘がちな方には好みの飲み物やゼリーを促し便秘予防に努めている。便秘や下痢などある方には医療に相談し、その方にあった薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の間隔があかないよう確認している。車椅子のご利用者は二人介助で入浴を行い、体調を考慮し清拭に変更することもある。	普通浴槽、器械浴槽のどちらかを身体状況により使い分けをしている。土・日を含めて週2～3回の入浴で、午前・午後のいずれでも希望する時間帯を選べるようになっている。仲良し同士で入浴し、楽しんでいる方もいる。職員との語らいの場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者のペースに合わせお昼寝をしたり、夜間眠れない方には話し相手になっている。快適に過ごせるよう空調を調整しこまめに見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬できるよう飲み込みまで確認している。変更時は注意点や副作用などの確認、症状の変化があれば申し送りにあげ、職員全員で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやたたみものなど一人ひとりに合わせ、役割を持っていただいている。施設内を散歩したり、他部所のご利用者と交流できるようお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅に定期的に外泊し畑仕事をしたり、受診時にご家族と外食したりと、協力していただいている。学校行事や他施設の行事に参加するなど外出の機会も増えている。	日常的な事業所周辺の散歩のほか、希望により、ドライブを兼ねた外出、年間行事予定による花見、紅葉狩り、近くの上野中学校の文化祭の見学、催し物の見学のほか、隣接する小規模多機能ホームへ出掛けて、体操などを楽しむ方もいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームうえのまち(西ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事や外出・ドライブの際には、預かり金から出し一緒に買い物をしている。受診時見守りしながらご自分で支払いが出来るよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがある方はご家族に協力していただき、電話をかけている。職員が日々の様子を毎月手紙やノートでお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々で快適な温度に違いがあるので、体調に影響が出ないよう共用空間の調整を行っている。ホールには季節を感じられる絵や、ご利用者の作品を掲示している。	リビングは、一般の家庭のようにカレンダーや季節の写真、季節の花などが飾られ、落ち着いて生活が出来るような雰囲気になっている。採光、室温とも快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置き少人数で過ごせるよう配慮している。ご利用者同士で話をしたり、1人で過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や絵・思い出の品など置いている。タンスやベットの位置もご本人の状態に合わせ配置している。ご夫婦で入居されている方は、居室で一緒に生活できるよう配置を工夫している。	居室への私物の持ち込みは自由としていて、家族の写真、絵や置物などが飾られ、自分自身の居室として過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皮下出血予防の為ベット柵をタオルで保護している。センサーコールや鈴を使用し安全に生活できるよう心がけている。		